様式１（小・中）

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和２年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立大良小学校

1　前年度 評価結果の概要	○自己評価では，全項目でほぼ目標が達成されたと言ってもよいレベルであった。しかしBの評価をつけた項目が３つあった。学校評議員による評価は全てAだった。 ①業務改善に関しては，本年が昨年度に比べ，職員数が2名減となったこともあり，目標に反し，年間の平均残業時間数は増加してしまった。 ②安全・安心に過ごせる環境づくりに関しては，年度当初に計画した訓練をすべて実施することができた。しかし7月に警察官を講師に招いて実施する予定であった「防犯教室(不審者侵入対応訓練)」が大雨のため中止となり，学校職員による実施となった。火事や地震等と違い，相手が人なので行動の予測が難しく，幾重にも不審者の行動を想定して臨まなければならないので，実際の活動を伴う訓練の必要性を改めて感じた。また他の訓練でも，本校は職員数が少ないので，有事の時に人員が足りなくて子供の安全確保が難しい局面が予想される。そこで訓練中に声を掛け合い役割分担の確認や協力の依頼を行ったり，避難経路の確認を行ったりすることに力を入れてきた。また，子供たち自身にも考え行動する資質・能力をつけるために，訓練前に災害に関する指導を行い，訓練の最後に「このような場合にはどうするか。」や，「なぜ，このような避難の仕方が必要なのか」といった質問等をすることで児童一人一人に考える時間を設定したことで，児童も真剣に考え行動する姿が見られた。 ③学校での基本的な学習習慣づくりは，ほぼできているが，家庭での早寝・早起き，ゲームの時間等，今後も家庭と連携した取り組みを進めていく必要がある。
2　学校教育目標	**心豊かで　自他ともに大切にし　共に学び合う　たくましい　子どもの育成** **～正しく，かしこく，たくましく～**
3　本年度の重点目標	**1　主体的な学習（かしこい学校）** **①よく見て，よく聴き，考えを持ち，伝え合う子 ← 自己表現，伝え合う学習** **②主体的に学習に取り組む子 ← 計画的学習に，そして自己評価** **2　思いやり（一人ひとりを大切にする学校）** **①よさを認め合い思いやりの心をもつ子 ← 出番・役割・責任・承認(居場所・活躍する場づくり)** **②「ありがとう」を大切にする** **3　健康・安全（元気で落ち着いた学校）** **①自ら行動するたくましい子 ← 朝の挨拶，靴の整頓，立腰教育** **②基本的な生活習慣づくり・体力づくり運動**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・学力向上対策評価シートのマイプランは，学力向上アクションプランチェックシートの個人用で成果をみる。1学期は90%，2学期は95%と，本校教師の学習達成感や学習改善に向かう意識は高いと言える。	A	・学力向上対策評価シートのマイプランは，学力向上アクションプランチェックシートの個人用で成果をみる。3学期は90%と，成果指標を達成した教師は100%であることから，全職員の共通理解のもと共通実践ができていると言える。	A	・まじめな取り組みの様子が伺える。	・学力向上対策コーディネーター（早瀬） ・研究主任（中島）
	○個に応じた指導の充実	○授業や全校での取り組みの中で，言語活動の場を数多く設定し，伝え合う活動を通して表現力を高める。 ○友達と交流する学習をとおして授業が分かり楽しいと思う児童を30人（88%）以上にする。 ○家庭学習の定着，自主学習を促進させ，学年に応じ，家庭学習の時間を達成する児童を30人（88%）以上にする。	・朝の時間に読み・書き・計算の徹底指導を行う。 ・「ふり返りタイム（国語・算数）」，長期休業中のサマースクール等で個に応じた指導を行う。 ・「考えを交流する時間」を毎日の授業の中に取り入れる。 ・自主学習に積極的に取り組むように支援していく。 ・家庭の協力を得るために，家庭学習の手引き・学校通信・学級通信などで啓発を図る。	A	・全校での取り組みの中での感想交流が活発に行われていて，それが授業の中の伝え合う活動につながって表現力を高めている。 ・「学校の授業は楽しく，わかりやすいですか」というアンケートに肯定的に回答した児童が31人（91%）である。 ・3年生以上で「家庭学習をしていますか」というアンケートに肯定的に回答した児童が20人（87%）である。	A	・全校での取り組みである各種集会活動での感想交流が，伝え合う活動の模範となり，授業でも生かされ，表現活動が活発に行われている。 ・「学校の授業は楽しく，わかりやすいですか」というアンケートに肯定的に回答した児童が32人（94%）になり，成果指標を達成できた。「考えを交流する時間」を毎日の授業の中に取り入れた成果の表れである。 ・全学年で「家庭学習をしていますか」というアンケートに肯定的に回答した児童が34人（100%）であった。	A	・教師と児童が楽しく授業に取り組めることが何よりだと思う。	・学力向上対策コーディネーター（早瀬） ・研究主任（中島）
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○各学年の実態に応じ，地域・外部人材を活用した体験活動を年に複数回は実施し，「郷土愛」「豊かな心」の推進を図る。 ○児童中心に考えを伝え合い，議論する活動を道徳の授業の中に仕組んでいき，道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童の割合を90%以上にする。 ○特別な支援，配慮が必要な児童について職員全体で共通理解を図るために，児童理解協議会（年間4回）を行う。	・生活科や総合的な学習の時間をはじめ，様々な教育活動において，地域人材や外部人材を活用する。 ・年1回「ふれあい道徳」の授業を実施し，学校便りや学級通信等によって，道徳教育や道徳授業の取り組みの様子を家庭に発信する。 ・児童理解協議会を開き，支援が必要な児童について共通理解を図る。 ・夏季休業中に外部講師を招いて，特別支援教育の研修を持ち理解を深める。	A	・公民館や放課後サポーター等の地域の人材に来校してもらい，生活科や総合的な学習をはじめ，様々な教育活動を共に行うことができた。 ・全学年，参観日等で「ふれあい道徳」の授業を公開し，家庭に発信することができた。 ・児童理解協議会を学期ごとに開き，支援が必要な児童について共通理解や意見交換を行うことができた。 ・夏季休業中に高峰中校区4校合同で外部講師を招き，特別支援教育研修会を行い，研鑽を積むことができた。	A	・各学年の実態に応じ，地域・外部人材を活用した体験活動を計画的に実施し，「郷土愛」「豊かな心」の推進を図ることができた。。 ・児童がお互いに考えを伝え合う活動を道徳の授業の中で取り組んだ。道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が97%以上であった。 ・特別な支援，配慮が必要な児童について児童理解協議会を年4回開き，支援の具体的方法を共通理解することができた。また，スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーからのアドバイスを受けた支援ができた。	A	・「支え合い」，「絆」を大切に実践がされている。 ・地域住民との交流も積極的である。	・道徳教育推進教師（永田） ・人権・同和教育担当者（永田）
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○道徳や学級活動の時間に「いじめ」に係る授業実践を全学級で行う。 ○「いじめ」の予防，早期発見に努め「学校が楽しい」と思える児童が28人（82%）以上になることを目指す。 ○相手を思いやる気持ちを育て，児童の人権感覚を育てる。	・各学年の発達段階に合わせた「いじめ」に関する授業を全学年行う。 ・学期に１回，教育相談週間に合わせて「心のアンケート」をとり，担任や職員全体が関わって教育相談を行う。 ・「人権集会」を年5回以上開き，職員が輪番で人権や共生，協力などの話をする。	B	・道徳や学級活動の時間に各学年の発達段階に合わせた「いじめ」に係る授業実践を全学級で行った。 ・「心のアンケート」や普段の生活の中での子供の様子等からいじめを早期に発見し，全職員で対応するようにしている。 ・「人権集会」で共生，差別，児童労働などのテーマで職員が話をして，児童の人権意識を高めている。	A	・「学校が楽しい」と答えた児童が34名中32名で目標は達成できた。これからも全職員で心のアンテナをはり，いじめを早期に発見し，全職員で対応していきたい。 ・「人権集会」での教師の話(輪番)が，とても児童の心に響いている。次年度も取り組みを進めていくことが有効だと思う。	A	・それがいじめかと思うことや，何をどうすればよいのかと思うところもあるが，学校は子供によく対応していると思う。	・（主）生徒指導主任（松本） ・（副）各学年担任
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎日々の授業や行事等の取り組みを通して，自己肯定感を感じる児童を28人（82%）以上にする。	・各分野の専門家や地域のゲストティーチャーとの交流を図り，向上心や感謝の心を育てる。 ・読書活動の充実を図り，自らの将来に希望を持たせる。	B	・低学年では，学校の周りの探検学習で地域の人と触れ合うことができた。中・高学年は，総合的な学習の時間の「炭づくり」を通して地域の方々とふれ合い，学習の振り返りにも，分かったことや感謝の言葉が多くみられた。 ・自己肯定感が高まったかのアンケートは，3学期に実施予定。	A	・『授業や学校の行事に取り組む時に，「がんばってできるようになって良かった」とか，「自分はやればできる」と思うことはありますか。』のアンケートに，29人（85%）が肯定的にとらえていた。今後も，日々の授業や行事等の取り組みを通して，自己肯定感を感じる児童を増やしていきたい。	A	・子供たちは，地域住民からも見守られている。 ・地域住民も，子供たちから元気をもらっている。	・（主）教務主任（早瀬） ・（副）各学年担任
●健康・体つくり	❶「運動習慣の改善や定着化」 ❷「望ましい生活習慣の形成」 ❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ❹「安全に関する資質・能力の育成」	❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で150分以上の児童生徒28人(82%)以上にする。 ②「大好き良い子カード」の生活チェックの点数が90点以上の児童を30人（90%）以上にする。 ❸「健康に食事は大切である」と考える児童生徒30人（90%）以上 ❹児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする	・休み時間や昼休みに外（雨天時は体育館）で遊ぶよう促す。また、テニスコートも開放し、様々な遊びに親しめるようにする。 ・各取組で，学年に応じた目標を設定し，頑張っている児童を表彰し，運動への関心を高める。 ❸・大好き良い子カードの自己評価などを参考に，日頃から褒めることやアドバイス等を通して生活習慣の定着を促す。 ・嫌いなものは最初は極端に量を減らし，頑張って食べようという意欲をもたせて，量を徐々に増やしていく。時間内に食べ終わることができた時には、大いに褒め自分はできるんだという気持ちを持たせる。 ・下校指導で，日々交通事故に関する注意喚起を行う。また，登下校での危険な事案があれば，すぐに全児童へ伝える時間をつくり，全員が安全に対する意識がもてるようにする。	A	・朝の準備の後や休み時間など，元気に外で遊ぶ児童が多かった。1週間で150分以上の運動やスポーツを行った児童が28人いた。今後も引き続き声かけを行い，多くの児童が運動に親しめるようにしていきたい。 ・大好き良い子カードの自己評価などを参考に，日頃から褒めることやアドバイス等を通して生活習慣の定着を促したが，個人差が大きい。生活チェックの点数が90点以上の児童は，4月は12人だったのが，10月～12月は22人に増えた。少しずつ点数を上げている児童もいるので，声かけ・励ましを続ける。 ・後川内地区が，下校時に列が乱れ広がりすぎていた。まとまって帰るように指導をし，並び方を確認して下校させたところ改善できた。日々，交通事故に関する注意喚起を続けている。	A	・ほとんどの児童が，元気に運動場に出て遊んでいた。縄跳び強化週間では，寒い中，一生懸命縄跳びに取り組んでいた。授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間に150分以上の児童が32人であった。 ・大好き良い子カードの自己評価などを参考に，日頃から褒めることやアドバイス等を通して生活習慣の定着を促したが個人差が大きい。1学期から2学期にかけては生活チェックの点数が増えていたが，冬休み明けの１月は16人だった。少しずつ点数を上げている児童もいるので，声かけ・励ましを続ける。	A	・朝から通学時の子供たちの元気な声が聞こえる。嬉しく思う。 ・外で楽しそうに遊んでいるようで，何よりである。	・体育主任（稲富） ・保健主事，給食主任（佐々木） ・生徒指導主任（松本）
	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・予定退勤時刻を明確にし，仕事の軽重を付けて業務に取り組む。 ・金曜日の定時退勤日を徹底するために，朝と退勤10分前に呼びかける。 ・行事や校務分掌に係る業務の平準化を図り，年間の計画を立てる。 ・学年ごとのフォルダを整理し，教科フォルダ，行事フォルダ等を作り，お互いのデータを共有化する。 ・提出期限がある業務に関しては，早めに担当者に伝え，余裕をもって取り組めるようにする。	B	・11月の研究発表会に向け，全職員の時間外勤務の平均が9月～11月の3ヶ月間は，昨年度と比べて平均で3時間11分増加した。また，夏休みの短縮をうけ，8月は昨年度より全職員の平均で5時間35分増加した。4月～7月までは昨年度を全月で下回り，月平均約28時間であった。前年の1年間の平均と本年度11月までの平均では，本年度が約50分短くなった。 ・上記の昨年度より時間外勤務が増加した月以外は，定時退勤日の退勤時間は概ね良好であった。 ・行事では，地域に協力を依頼し，職員の負担軽減と超過勤務を短縮することができた。分掌等の平準化を図ってはいるが，校務分掌・担当学年等により，時間外勤務に個人差がある。 ・共有データに各学年のデータ資料が増えてきた。資料の確認と利用の呼びかけを今後も続けていく。 ・依頼文書はすぐコピーをして担当者に渡し，余裕をもって処理できるように配慮することができた。	B	・11月の研究発表会以降は，長時間勤務をしていた職員も退勤時刻が早くなった。1月までの月の超過勤務時間が45時間を超えた職員は，9月(2名)，10月(2名)，11月(2名)，12月(2名)であった。校務分掌の内容によって，時間がかかるものがあり，超過勤務になっている。また，受け持ちの学年によっても担当する仕事量が変わってくるので，来年度は更に職員間の仕事の平準化を意図した校務分掌を考えていく必要がある。しかし，急ぎの仕事がないときは，通常18時前にはほぼ退勤することができた。 ・教科や各部に関する共有データは増えてきた。しかし，どのようなデータがあるかを知らずに活用されていない面もあった。定期的に内容を確認し，利用の呼びかけをしていく。 ・依頼文書とデータのコピーを担当者に渡し，余裕を持って処理できるように配慮した。担当者は計画的に提出データ等を作成し，期限に間に合うように処理することができた。	B	・教師の苦労は当たり前ではない。大変だなと感じながら見ている。	・管理職（大久保）
	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	
○	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	
○	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	○自己評価では，全項目でほぼ目標が達成されたと言ってもよいレベルであった。しかしBの評価をつけた項目と，A評価ではあったものの引き続き指導していく必要がある項目がある。その改善が次年度への向上につながると思うので，以下のような取り組みをしていきたい。 ①業務改善に関しては，本年が昨年度に比べ職員数が1名増となったものの，研究発表会に向けての準備や一人の職員が複数の校務分掌を持っているため目標に反し平均残業時間数は微増した。次年度は，児童の学力保障のための研修会や児童と関わる時間等を確保しつつ○時△分には全員退勤するという目標を設定し，行事の精選・共有データ(紙の資料等も)を充実することで業務の効率化をさらに推進していく。 ②安全・安心に過ごせる環境づくりに関しては，年度当初に計画した訓練が新型コロナ感染症対策のため実施できなかったものがある。7月に警察官を講師に招いて「防犯教室(不審者侵入対応訓練)」は実施できたが，交通教室は，各学級でDVD視聴して担任が指導した。次年度は，交通教室を従来通り実際に子供たちに体験させながら進められるよう計画する。また他の訓練では，本校は職員数が少ないので，有事の時に人員が足りなくて子供の安全確保が難しい局面が予想されるので，本年度は，訓練中に声を掛け合い役割分担の確認や協力の依頼を行ったり，避難経路の確認を行ったりすることに特に力を入れた。子供たち自身にも考え行動する資質・能力をつけるために，訓練前に災害に関する指導を行い，訓練の最後に「このような場合にはどうするか。」や，「なぜ，このような避難の仕方が必要なのか」といった質問等をすることで児童一人一人に考える時間を設定した。次年度は，計画書通りの訓練ではなくて，職員が出張等で人員が足りない場合や休み時間など，有事の時には不安がある(本校のウイークポイント)事項について対策を考え訓練を実施していく。 ③基本的な学習習慣づくりは，ほぼできているが，早寝・早起き，ゲームの時間等，今後も家庭と連携した取り組みを進めていく。